

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102352		
法人名	有限会社高木ライフ企画		
事業所名	グループホームさんあい		
所在地	宮崎市老松1-6-19		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&jisyosyoCd=4570102352-00&PrefCd=45&Version=0d+022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人が自分らしく生活できる環境・雰囲気づくりを職員、入居者、ご家族と考え、みんなで楽しく生活出来るホームを目指し、一人ひとりの人権と個性、思い出を大切に出来るよう、職員一同で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは駅近くに位置しており、近隣には高層マンションやスーパー、コンビニエンスストア、公園や公民館などが多く、利便性が高い。食事では、自家製の家庭菜園で栽培された野菜を用いるなどの工夫を行っている。また、職員は現状のケアに満足することなく、より高いケアを目指して日々改善に取り組んでいる。終末期の対応についても、医師との連携を深め、訪問看護を導入し、関係者と協力して前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で暮らし続けられるよう、理念をかかげている。	ホームの理念を玄関に掲示し、職員への周知を行っているが、開設当初からの理念であり、定期的な見直しなどがなされていない。	理念について、全職員で話し合い、地域のニーズやホームの状況の変化に応じて見直しを実施し、実践につなげる理念の作成を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の方々に挨拶、コミュニケーションを図っている。	自治会に加入しており、自治会長をはじめ、地域の人々と散歩時に挨拶を交わすなど、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時での避難場所、協力体制から地域への貢献や体制の確認と考えているが、進行していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、施設内の入居者、職員の状況や行事内容を発表し、意見や理解を頂いていたが、職員体制等により、夏から運営推進会議を行っていない状況にある。	自治会長、地域包括支援センター、福祉協力員、家族の参加の下、運営推進会議を開催し、ホームの状況を報告したり、地域からの相談を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護や介護保険料等の手続きから市への連絡や相談を行っている。ケアサービス取り組みを伝えている状況ではない。	管理者を中心に、市役所の各課と相談やホームの実情の報告、改善に向けた連携などを図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一昨年の実地指導や外部評価からの意見等にて、現在、身体拘束は行っていない。	随時、研修等に参加し、その内容を身体拘束のマニュアルに反映しているほか、拘束のないケアに対する職員の理解や意識の徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待行為はない。しかし、職員の言葉使いで興奮や混乱、不安をきたす場面が時折みられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等で利用者家族に説明したりしている。日常生活自立支援事業は10月途中まで利用をしていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	パンフレットや契約書等に詳細が明示されており、十分説明し、利用者家族から理解を頂き、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情窓口として、担当者、電話番号、受付時間、投書を明示し、意見箱も設置している。	意見箱に意見が入ることはないが、管理者に直接電話等で苦情がある。その内容を朝の申し送り時に職員に報告し、改善策を検討の上、家族等へ報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在、ミーティングは行っていない(問題点から結論へ、とその場で意見がまとまらず、視点が大きくずれる為)。	人事異動などもあり、夏場以降、職員全体での定期的な会議やミーティングの開催などがなされていない。	今後は職員体制の整備に合わせ、定期的な職員会議を持つことで、利用者へのケアや様々な場面での意見の反映を図ることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は手当や休みを楽観的に行使する場面があり、他職員も少なからず疑問又は不満がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	時間外の研修参加について積極的でなく、研修参加の機会がない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しているが、今年は職員人数の関係もあり、参加出来る機会がなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様子観察や話をするなどし、対応しているが、時折、独断で推測などから介護方法、さらに入居者の方の人格までも判断している場面がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、気になる事を出来るだけ早く対応出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況によっては、入所判定又は病気の治療等から行い、本人様の過ごしやすい場所への助言を行うところが、経営的な方針から入所判定が出来ず、入所となるケースがあった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対話する時間は多く、困りごとを把握し援助出来るよう努めているが、職員によっては一方的な判断(推測)で利用者の性格を決めつけ対応し、他職員へも意見(同意)を促す場面がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	上記同様、職員によっては管理者へ、ご家族の意見等を報告し対応するが、職員によっては自己判断でご家族へ、入居者の状況から推測、対応まで決め、話されてる場面がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の入所前までの交流等を把握し、ご家族の協力もあって、入所後も関係が途切れないよう支援に努めている。	家族をはじめ、知人や友人等との外出や交流の機会を持つほか、なじみの場所に外出できるように支援し、また、家族、知人・友人との連携を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一部の利用者の言動から、一部の利用者が平常に食事したりホールで過ごせない状況があり、言動のある方へ説明を行うが、病状から改善出来ていない。また、職員の対応についても分かれている場面がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状からやむを得なく退所(入院)された方には連絡を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族、利用者と対話し、何気ない言葉や行動を見逃さず、遠慮なく話が出来る対応にて把握に努めている。	入居者本人や家族と十分に会話をし、また、接点を設けることで生活の意向を把握し、ケアの実践の場面や生活に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、本人様の話を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣、趣味、関心を示される事柄から把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人様との対話、状況から介護計画の見直しを行っているが、一部職員の自己判断から本人への対応、ご家族への報告などを行っている場面があり、チームケアが出来ない、やりにくい状況である。	朝の申し送り時などの時間を活用し、利用者に対するモニタリングやケア方針の見直しに、職員全体で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、介護記録から計画書、モニタリングまでいつでも職員が閲覧出来、情報を共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院への相談、事業所内のデイサービスとの交流から支援の幅はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事の把握は出来ているが、時間帯や職員人数により参加の機会を逃している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じ、高木内科へ相談、報告、指示を仰ぎ、速やかに対応している。また、月に1度の往診もあり、健康状態の把握も出来ている。その他かかりつけ医とも連絡、相談が出来ている。	経営主体である医療機関が定期的に往診を行うほか、必要時の他科受診の支援を行っている。また、医療でのリハビリや通所介護を利用する支援も積極的に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がご家族への連絡、かかりつけ医への受診、処方薬の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報交換や相談、連絡を行い、退院後の相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医、ご家族と看取りにおいて十分な説明と対応を行い、支援している。	主治医との連携のほか、訪問看護を導入し、家族への説明を書面で丁寧に行うなど、十分な支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況に応じ、かかりつけ医へ連絡し行っているが、ご家族へ対応(電話連絡等)でご家族に不安や不信感を与えた場面もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	津波による避難場所等を消防に計画書として提出し、受理して頂いたが、津波到達時間や津波水位から、個人的には不十分で避難場所の検討が必要である。	地震や津波に対する避難訓練等は行っているが、火災(特に夜間想定)を想定した訓練が不十分である。	夜間想定での火災発生時の訓練等を充実することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話に夢中になり、他利用者に聞こえる場面がある。	利用者本人がなじみのある呼称での声かけをはじめ、個人の居住環境や共同の生活環境でも利用者の人格を尊重し、利用者一人ひとりに敬意を払った言葉遣いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや意見を遠慮なく言える雰囲気作りや対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生命に関わることに關してはご家族へ説明を行い、理解を得ていると思うが、一部職員で独断で対応・判断し、他職員も仕方なく合わせている場面も見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に利用者様を招き、本人様の希望や雰囲気に合わせ散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者への要望から食事メニューを決めたり、利用者と一緒に配膳、状況に応じ食事準備を行うなどしている。	利用者の希望を食事メニューに反映している。また、家庭菜園での野菜を取り入れ、食事を作るほか、利用者の好む音楽を流すなど、雰囲気にも工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分確保は利用者に合わせて行い、食事形態も速やかに状況に応じ検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	高木歯科と連携し、相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄能力に合わせた支援を行っている。	個々の排せつパターンを把握しており、おむつ着用は少なく、多くの利用者がトイレで排せつを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と連携し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体状況に応じて入浴を行っている。	週3回、入浴を実施している。入浴日を設けているが、多くの利用者が希望する日時で入浴できるよう支援体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状況に応じて、対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最近薬の紛失はないが、職員の判断で安定剤等の内服を判断した場面がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、能力を活かし、得意分野で役割をして頂けるよう支援しているが、全利用者に出来ているわけではない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	多くは出来ていないが、利用者個人と一緒に買い物に出かけたり、ご家族や知人の協力から外出する機会を設けている。	少人数ではあるが、一緒に食材の買い物に行くなどの支援を行うほか、家族や近隣との連携を図り、公園や公共施設への外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じ、又はご家族へ連絡・相談し、買い物等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や能力に応じ、取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設外観、内部、家具やテーブル等は、ごく一般家庭にあるものを使用している。	民家を改築した建物であるが、非常に大きな作りである。その中でも家庭的な雰囲気の残る、温かみのある環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定員になると狭いホールにて、車椅子の方がどうしても他利用者と同じテーブルにつけられない事がある。一部利用者の暴言に対応困難にて、一部利用者が気持ち良く過ごせない状況がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の心身状況を確認し、本人様、ご家族と連絡、相談を行い、持参して頂いてる。	身体状況に合わせた居住空間に配慮しながらも、慣れ親しんだ家財具を配置するなど、居心地の良い空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の人格を尊重し、心身状況に合わせ、少しでも自立した生活に繋げているが、一部利用者の状態によって、施設内を自由に移動出来ない事がある。		